



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

公益財団法人 友愛

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

編集人：羽中田元美

隔月1回 10日発行

会費(4月～3月)

個人／3,000円以上

法人／10,000円以上

二〇二〇年度 事業報告作成進む

六月二十六日開催予定第四回評議委員会にて協議
各事業とも充分な実施出来ず・収穫は若者の団結

世界的なパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスの影響は、当財団の事業実施、特に国際交流事業にも影響を与え、二〇二〇年度は思うような活動を実施することが出来なかった。インターネットを活用した表彰式を開催するなど、極力事業実施に努めたが、友愛の思いを实践する「人と人の交流」が出来なかった事は残念である。

現在作成を進めている「事業報告」を紹介し、読者の皆さまのご理解の一助とさせていただきます。
この事業報告は、計算書類（決算書）と併せて、第四回評議委員会において諮られ、承認を受けた後、決定する。

二〇二〇年度総括

公益財団法人の認可を受けて二年目となる二〇二〇年度は、更なる事業の発展と充実を目指すべく意気込んでスタートしたが、二〇一九年度末から世界を襲った新型コロナウイルスの影響は、終焉を迎えるどころか拡大の一方で、世界中がこの対応に追われた一年であった。このため、当財団の公益事業、特に国際的に展開している事業においては、延期を余儀なくされる結果となった。

ミャンマー農業発展支援・農業指導者育成事業においては、二〇二〇年度の招へいを断念し、特定費用準備資金を設け、次年度日本国内でミャンマーの農業発展に資する事業を行うこととした。OEJAB派遣事業は、コロナ禍の中優秀な熱意ある学生の応募があ

り、六名を派遣員としたが、実際の派遣を実施することは叶わず、この事業も特定費用準備資金を設け、次年度の実施となった。
友愛国際写真コンクールは、応募者の数は半減したが、優秀な作品が集まり、インターネットでの情報交換を行いながら、日中双方の審査員によって入賞作品を選考することができた。コロナ禍の状況を如実に表現し、そんな中で人と人の想いが如何に大切かを訴える「友愛理念」を表現した作品に多く触れることができたことは、本コンクール事業の真髓に達したことのない歩みを感じられる。

同様に「私にとって友愛とは」の小論文コンテストでも、新型コロナウイルスの影響を取り上げた作品が多くあった。こちらも選考委員のご協力を得て、入賞作品が決まり、賞状・文集

の機会を設ける。
◇OEJAB受入
事業の概要
OEJABが推薦する若

千名の若者を受入、日本についての研修、平和理解のための広島市視察などを実施。戦争の傷跡を有する日本とオーストリアの若者で、世界平和に向けての新たな思いの形成につながる。また、両国の若者の交流は、相互理解の基礎となる。世界平和を目指す若者の育成は、本財団の要となる理念を实践する事業である。

◇ミャンマー農業発展支援・農業指導者育成事業
事業の概要

貧困の解消は、世界平和の基盤であり、ミャンマーも例外ではない。経済基盤を農業に求めているミャンマーに向けて、農業発展支援・農業指導者を育成するための事業である。

各事業の概要

1、国際交流事業
(定款 第4条 第1項 第1号に基づく事業)

◇OEJAB派遣 事業の概要

国際相互理解促進のための交流を实践する事業である。人材育成及び支援事業として友愛派遣員等の交流を通じて、相互理解、相互尊重、相互扶助を両国の若者が実践する機会を与える。

併せて幸いなことに、友愛派遣員として各地に赴いた経験をもち若者が「友愛ユニオン」と命名した組織を立ち上げ、今後の友愛活動に協力を申し出てく

触れながら学ぶ機会を設けること。
◇小論文コンテスト
事業の概要

イギリスの哲学者「フランドス・ベーコン」が「友愛の理念を以て、全人類の融和を」と説いたように、友愛理念の啓発は次世代を担う若者にこそ必要で、世界の平和に資する若者の育成は、必要不可欠からざる事柄である。世界の融和を求めるとき、隔たりとなる要因の一つに言語があり、世界でも特殊な言語である日本語を理解できる人材の育成は、友愛理念の啓発に重要な要素といえる。中国国内にある諸大学の協力を得て友愛についてのレクチャー（講演・ビデオ等）を行い、参加学生より小論文を日本語で募り、優秀作品を表彰する。

◇友愛国際写真コンクール
事業の概要
言語を超えて訴える写真という媒体を通して、友愛・平和・環境の重要性を表現した作品を表彰し、世界平和実現の精神涵養につなげる。

2、表彰事業
(定款 第4条 第1項 第2号に基づく事業)

「友愛」「平和」「緑（環境保護）」「人と自然」をテーマに写真コンクールを行う。方法として、インターネット（携帯電話を含む）が世界的に発達し、社会的コミュニケーションを得ていることから、世界を対象にインターネットでの募集・応募も安易に行えるようになった、これらを踏まえ、植林事業において永年カウンターパートとして協力関係を続けている中華全国青年連合会（中国国際青年交流中心）との関係をこの事業を以て継続し、日中友好を築くこととする。

ミャンマーの主たる産業が農業であることから、農業に関する知識、技術を日本の文化や考え方、生活に

◇小論文コンテスト
事業の概要

イギリスの哲学者「フランドス・ベーコン」が「友愛の理念を以て、全人類の融和を」と説いたように、友愛理念の啓発は次世代を担う若者にこそ必要で、世界の平和に資する若者の育成は、必要不可欠からざる事柄である。世界の融和を求めるとき、隔たりとなる要因の一つに言語があり、世界でも特殊な言語である日本語を理解できる人材の育成は、友愛理念の啓発に重要な要素といえる。中国国内にある諸大学の協力を得て友愛についてのレクチャー（講演・ビデオ等）を行い、参加学生より小論文を日本語で募り、優秀作品を表彰する。

◇友愛国際写真コンクール
事業の概要
言語を超えて訴える写真という媒体を通して、友愛・平和・環境の重要性を表現した作品を表彰し、世界平和実現の精神涵養につなげる。

2、表彰事業
(定款 第4条 第1項 第2号に基づく事業)

「友愛」「平和」「緑（環境保護）」「人と自然」をテーマに写真コンクールを行う。方法として、インターネット（携帯電話を含む）が世界的に発達し、社会的コミュニケーションを得ていることから、世界を対象にインターネットでの募集・応募も安易に行えるようになった、これらを踏まえ、植林事業において永年カウンターパートとして協力関係を続けている中華全国青年連合会（中国国際青年交流中心）との関係をこの事業を以て継続し、日中友好を築くこととする。

ミャンマーの主たる産業が農業であることから、農業に関する知識、技術を日本の文化や考え方、生活に

友愛時評

▼毎日新聞の特集記事「EUの源流といま」に関連して取材を受けた。クイデンホーフ・カレルギーが全国紙で詳しく取り上げられるのも久々だが、今回の特集に至った背景には欧州のインターネット上で拡散している「カレルギー計画」という陰謀論がある。▼アジアやアフリカから大量の移民を流入させることで、欧州の人種を抹消するエリートたちの計画」というもので、EUの寛容な移民・難民政策などに不満を抱く人々の間で流布しているらしい。元々はネオナチ思想を持つオーストリア人作家ゲルト・ホンシクが二〇〇五年の著作で唱えたものだが、今なお根強く様々なサイトに関連の投稿が続いているようだ。▼この荒唐無稽な陰謀の「立案者」に何故カレルギー伯が担がれたのか正直わからないのだが、日本人との混血で文字通りコスモポリタンの貴族階級出身であることが陰謀論者の恰好の標的となったのかもしれない。▼昨年の米大統領選で「Qアノン」の影響力が危惧されたように、現在は「陰謀論」の時代とも評される。その背景には、グローバル化／科学技術の進展によって世界が大きく転換していることがあるのだろう。それによる社会の変容は「見えない力」によるものにも思われ、そこに自分たちとは違う悪を感じる者は誰かの陰謀と考えたくなるというところだろうか。▼今次のパンデミックはそうした傾向に拍車をかけるかもしれない。他方「ワクチン争奪戦」に見られるように国家間の利害対立も顕著となっている。人類史の転換点にあたって、人間同士の間で試みられているようなものを感じる。（ヒゲ）

「私にとって友愛とは」友愛賞(一位)・二位入賞作品

友愛小論文コンテスト 二〇二〇年度受賞作品 紙上発表

北京／北京語言大学校内にて表彰式実施
受賞者への賞状及び作品集を作成・郵送

友愛小論文コンテスト二〇二〇年度は、北京語言大学を対象に実施された。小論文執筆のための友愛についてのレクチャー講演会は、二〇一九年十二月に北京語言大学にて実施され、学生からは十七編の応募作品が寄せられた。選考委員会による厳選な審査の結果、友愛賞(一位)二位(二名)三位(四名)が選考された。表彰状も作成し、表彰式開催を予定していたが、訪中が出来ないことから、その式典への参加を見合わせ、現地大学にて行っていたくようお願いした。今回は時節柄、新型コロナウイルスによる影響を取り上げた作品が多かったが、友愛理念の理解に前向きに取り組む、外国語である日本語で小論文にまとめたの応募に、若い積極性を感じられ、本事業の目的は達成されていると感じられた。

ここに友愛賞(一位)、二位受賞の作品をご紹介します、『友愛』読者諸氏のご意見、ご感想をお伺いする機会としたい。

友愛賞

私にとって友愛とは

楊稼溪(二年生)

去年の冬のある日、鳩山由紀夫先生をはじめ友愛協会の方々とお会いしました。寒い冬でしたが、鳩山先生の暖かい言葉が心に残り、友愛に対する考え方も新たにしました。

かつて私にとって友愛とは、自分を犠牲にした「仲

そして、尊重し合うだけではなく、私たちはそれぞれの道を歩みつつ、必要なときは互いに助け合います。なぜなら、人間は他人の協力を得て生きています。しかし、助けてもらってばかりもいけません。個人として自立しなければなら

観、趣味に合わせて嫌なことも我慢してきました。結果私が困ったとき、助けが必要な時に手を差し伸べてくれる友達はいませんでした。

今私が理解する「友愛」とは武者小路実篤さんが書いた「君は君、我は我也、されど仲良き」という言葉に似ています。お互いの考え方や好み、そして歩む人生は違います。しかし、お互いの「違い」を認め、尊

重する姿勢があつて初めて絆を結ぶことができます。今私と友人は随分異なっていますが、私たちはお互いに尊重し、とても仲良くしています。私たちが一緒に過ごした時間は、楽しいだけでなく、切磋琢磨し、学べるのがたくさんあります。みんなそれぞれの強みや弱みがあるからこそ、互いに補い合うことができるのです。

関係も例外ではありません。国家は国民を守り国益を求めるのは当然なことですが、他国を尊重し、協力関係にあるべきです。これ



2019年12月10日北京語言大学講堂にて行われた友愛理解のためのレクチャー講演会。多くの学生が集まり、日本から参加した学生との交流も行われた



らが鳩山先生がおっしゃった自立と共生の原理だと思います。

中日は国交を樹立して以来、良い関係にある時、またそうでない時があります。

た。しかし、武力によって平等を押し付けるのではなく、話し合いで尊重を求め合った関係は変わったことがあります。

さらに「患難見真情」と言うことわざがあります。が、日本語では「まさかの時の友こそ真の友」と言います。2011年、日本を襲った東日本大震災の際に、中国は躊躇わず支援をしました。今年の新型コロナウイルスの際に、日本が物質不足であっても、鳩山先生は中国に100万枚のマスクと武漢へ励ましのメッセージを送っていただきました。「山川異域、風月同天」の通り、場所が離れていても、同じ風を感じ、同じ月を眺め、同じ空の下にいる私たちの心は一つです。これは友愛精神そのものだと思います。

私は「違い」を理解し、尊重する勇気を持ち、さらに、そこから互いに学んでいきたいと思っています。これから出逢う人たちにこの友

愛の精神で向き合えれば、強い絆、大きな可能性、そして自身の成長になると信じています。

二位

私にとって友愛とは

单 増(二年生)

友愛とは、いったいどう

いう意味なのでしょう。鳩山由紀夫先生の講演を聞く前まで「友愛」という言葉が、ただ単に友達に対する愛として捉えられていました。しかし鳩山先生から「友愛とは自立と共生だ」とお聞きして、私は友愛の意味を考え直しました。

講演会で鳩山先生は、構築すべき社会の姿は一人ひとりを多様な個性を持つかけがえのない存在と認めた上で、互いに助け合って共に生きる「友愛社会」と説き、「友愛社会」の目標を達成するために、この自立と共生という二つの要素が不可欠だと主張されました。また「自立とは自己の尊厳を尊重すること、共生とは他者の尊厳をも尊重する精神だ」と強調されました。

すなわち、友愛は自己を確立し、自らの考えに基づいて判断批判するとともに、相手との共通点を探し合い、お互いに理解し支え合うということなのです。

友愛というのは、人と人だけでなく、国と国、人と自然などにもあると思っています。

われわれは現在、「地球村」という人類運命共同体の時代に生きています。これは新型コロナウイルスとの闘いからはっきり現れて

います。日本から中国に送られた支援物資に漢詩が書き添えられたことがネットで話題になりました。「山川異域、風月同天」や「青山一道同雲雨、明月何曾是兩鄉」はわれわれ中国人に漢詩のすばらしさ、中日の強い絆、感謝、感動をもたらしました。

現在新型コロナウイルス感染症は依然として世界規模で急速に蔓延しており、命を守るという考え、行動が中国と世界を緊密に結びつけています。今もなお中国は世界の国々と感染防止・抑制に関する情報を共有しています。これこそが鳩山先生のおっしゃった国と国の「友愛」ではないかと私は考えています。

新型コロナウイルス感染症の大流行は環境危機を無視し続ける人類への警鐘と捉えるべきと考えています。人類は私利私欲のため、環境破壊を繰り返しました。その結果、オーストラリアを襲った山火事、北極の水の融解による水面上昇、世界各地で相次いでいる洪水被害、絶滅危惧種の増加を引き起こしています。これらの問題を解決するために人類は自然に対する友愛を持つべきだと思います。たとえば、日常生活の中で、自転車を利用する、買い物へ行くときはマイバッグを持つ、北京や上海などではゴミ分別に積極的に取り組むなど、これらも鳩山先生が説く「友愛精神」の一つではないでしょうか。

日本語学習者としての私は、中日の架け橋となるべ



く、「友愛社会」の目標を実現するために貢献していきたいと思っています。今の私は友愛に対する理解はまだ十分とは言えませんが、実際の行動の中で友愛精神を実践しながら、理解を深めていきたいと思っています。

二位

私にとって友愛とは

張若玥(二年生)

新型コロナウイルスの影響で、友達と会えなくなり、今学期は学校に帰ってクラスメートと一緒に授業を受けることはできなくなりました。しかし、コロナウイルスの感染が拡大しているこの期間、中日友好はより固い絆にむすばれていると感じました。

前期に鳩山先生の友愛に関する講演に参加することができてとても光栄です。先生は国家、政治、経済などの角度から友愛の精神の大事さを伝えてくれました。友愛の精神は自由、平等と尊重であることが分かりました。私たちは相互尊重、相互理解、相互扶助の友愛社会を構築すべきなのです。また、先生は「自立

と共生」の理念を述べ、自分の個性を持つと同時に、他人や他国のも尊重するということを指摘しました。とても勉強になりました。

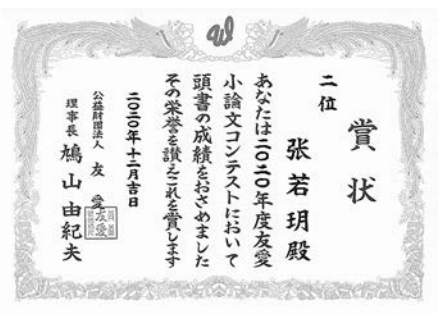
鳩山先生の講演の後、自分なりに考えた友愛とは、国、民族、性別、年齢などの差別がないということ。私たちは友達や仲間との間につり合いのとれた関係を築くことが大切だと思います。

友愛という言葉から、私は友達のことを思い出しました。大学一年生の時に日本人の友達と知り合いましたが、まだ日本語初心者でしたので、彼女とたくさん話ができませんでした。そのとき、私たちの交流はここで終わったと思いましたが、そのあと、彼女から連絡がありました。中国語を勉強したいと言われたのです。私が中国語を教える代わりに、彼女と日本語を勉強することもできます。私たちは学習パートナーになり、ほとんど毎日一緒に食事をするようになりました。

この友情を宝物のように大切にしています。これこそ友愛の精神なのではないでしょうか。

中日両国の間には、古くから多くの民間大使がミツバチのように行き来し、苦勞をいとわずに両国の友好の実を結んできたという歴史があります。中国の諺に「孤雁南飛、孤掌鳴き難し」というのがあります。今回の講演を通じて、友愛はリレー競走の時の小さなバトンのように両国の友情をしっかりと結んでいると思います。そして、中日両国は相互自立と共生の関係の中で絶えず進展していると強く感じました。

両国の言語に対する学習と積極的な交流を通して、私たち青年が中国と日本の新たな友好発展の架け橋になることを確信しております。



彼女は卒業して帰国しましたが、私たちは今でも相変わらず連絡を取り合いながら、勉強について話したり、面白い日常生活を話したりしています。特に今回のコロナウィルスのことでは、毎日のように連絡を取り合い、相手の体調を気遣ったり、健康に注意してほしいという思いを伝えたりしています。今、私たちに、それぞれ別の友達もいて、お互いのそばにいるわけではないのに、お互いのことを忘れたことはなく、

＊「私にとって友愛とは」の全作品は、七月以降友愛HPに掲載されます。また、全作品をまとめた小冊子（二〇二〇年度版）も作成しておりますので、ご希望の方は、友愛事務局までお申込ください。

完成!! 鳩山一郎研究書



増田 弘・中島政希 監
『鳩山一郎とその時代』 平凡社刊
A5判 472ページ
価格：5,500円（税込）
*ご希望の方は書店でご注文ください。

当財団の創設者鳩山一郎先生の研究書が発刊された。「友愛」という人間としての理想を掲げた政治家としての一面を見つめ、その時代を追って記されている。出版のきっかけとなったのは、本紙に紹介文を寄せてくださった増田弘教授が保存していた貴重な資料である。GHQからのページ（追放）を受けた際の、米国側の資料も含まれていた。

これらを吉田龍太郎氏・小宮京氏・上田美和氏の各氏が、それぞれの分野から読み解き、増田弘教授、当財団の理事も務める中島政希氏の両氏が監修し、まとめられている。

数少ない鳩山一郎研究の書として、各方面から注目される一冊である。

当財団では、友愛の普及啓発活動の一環として、各都道府県立図書館及び国立大学図書館に寄贈、一人でも多くの方に読んでいただけることを願っている。

政治家鳩山一郎の「再評価」に向けて

立正大学名誉教授 増田 弘

今日の自民党の源流「自由党」の創設者にして、戦後保守政治の「始祖」ともいべき鳩山一郎は、その実績に比して、適確な歴史的评价がなされていない。

今般われわれが出版に漕ぎ着けた『鳩山一郎とその時代』（平凡社）は、大正期以来の政党議会人鳩山の政治的軌跡を追うばかりでなく、終戦以降の鳩山を総帥とする「鳩山派」ならびに「鳩山路線」をも包摂すること、従来の鳩山研究に欠落していた部分に新たな光を当てると同時に、政治家鳩山の再評価をも企図している。

総じて政治家鳩山の本質とは、「自由主義保守思想に基づく政党政治家」であったといえる。それは第一に、人類社会の共存共栄を重んずる「友愛」の精神である。これは東洋的な仁政

の理念と西欧流の博愛の信条とが融合したものであり、鳩山自身が高い目標とした政治的思想の表象であった。第二が自由主義と漸進主義である。それは協同と調和に基づく社会的な自由主義、人々の生活向上に寄与する経済的な自由主義、国民社会に繁栄をもたらす政治的な漸進主義であり、急進性・暴力性・革命性を伴う社会主義・共産主義とは一線を画すものであった。第三が保守主義と政党政治優先主義である。保守主義とは「人間社会に古から伝わる道徳的伝統を堅持する」気質であり、鳩山は学識者で政治家でもあった父・和夫から、この純日本的な保守主義の伝統と高邁な議会人としての威信・矜持を継承した。つまり、高德な政治家こそが民衆を救い、社会国家を豊かにする天職であると信じたわけである。

しかし不運にも鳩山政治の正当性は、占領期という特殊な時代状況の中で人為的に奪われた。戦後初の総選挙で自由党が第一党の地位を獲得し、鳩山は首相に就任しようとしたが、突如GHQから政治的にパージされ、五年余も蟄居を余儀なくされた。そればかりか、鳩山バージは吉田ワシントン政権下で密室的な官僚政治の台頭を許し、保守本流の座をも奪われ、戦前からの政党政治家を主役から脇役へと追いやることとなった。

翻って二一世紀の現在、

戦後の保守本流といわれた吉田路線が歴史の審判を受けようとしている。前例優先の官僚的付度政治は、国民から厳しい批判に晒されており、実際、二〇世紀末の「五五年体制」崩壊以降、官僚出の首相は一人も登場していない。同時に対米依存・経済優先・一国平和主義の吉田路線は、日本の経済大国化や国際情勢の変貌によって現実的価値を失いつつある。その意味から吉田路線へのアンチテーゼ、自主・独立と共存・友愛の鳩山路線は、今後再評価を必至とするであろう。本書出版の意義はここにあると信じてたい。

理想主義者にしかできないことがある

公益財団法人友愛 理事 中島 政希

本書の「あとがき」にも書いたことだが、鳩山一郎の評伝や研究書は、吉田茂に比べて極めて少ない。これには様々な理由が考えら

多くの人が、西郷隆盛と言え「敬天愛人」、鳩山一郎と言え「友愛」を連想する。二人は日夜権力闘争に明け暮れる現実政治家でありながら、他方で「愛」を語る理想主義者だった。彼らは権力を追求すると

もに、政治に倫理や哲学を求めた。その少し浮世離れた彼らが、なぜか同時代のあまたの野心家たちに推戴され、人心を鳩合して現実の壁に挑んだ結果、大きな変革が成し遂げられたのである。歴史は、時として、現実主義者にはなしえないこと、理想主義者にはできない事業があったことを教えてくれる。

鳩山一郎は、困難な時代にも理想を失わず、挑戦と蹉跎を繰り返しながら、日本の議会政治発展のためにその人生を捧げた。その苦闘の生涯は、そのまま日本政党政治の苦闘の歩みと重なる。それゆえ鳩山一郎の実像を探索することは、日本の民主政治の現在と将来にとって大きな意味があるのであり、この度「鳩山一郎とその時代」を世に問うた所以もここにある。

それは同時に、昨今のような世界状況に必要とされる友愛理念の普及につながると信じている。

（政党政治研究所代表 元衆議院議員）

若者が見た『災害列島・日本』

東日本大震災から10年

災害列島・日本

49人の写真家が伝える”地球異変”の記録

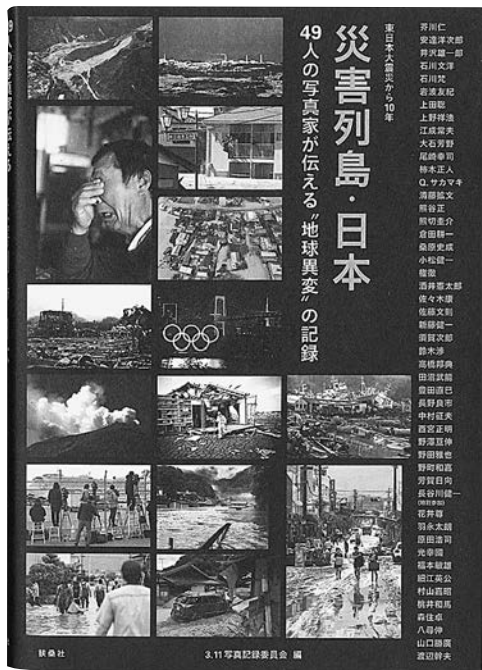
3・11写真記録委員会 編

判型：A5判 扶桑社 刊

価格：1980円（税込）

*ご希望の方は書店でご注文ください。

新しいスタイルの書評欄



心のケア

東北大学三年 館 宏輔

東日本大震災から一〇年の月日が経過した。一〇年前のあの日から現在にかけて日本は度重なる複合災害に見舞われてきた。二〇一六年の熊本大震災を始め、九州や中国地方への集中豪雨や巨大台風、異常な寒波や豪雪。そしてたった今現在、私たちはどれも「過去のこと」として捉えている。人間とは、長い年月が経つと多くのことを忘れてしまう生き物なのかもしれない。3・11の震災当時、世

間とともに大切なことを忘れてしまうのだ。そう言う私自身、現在縁あって仙台の大学に通っているが、毎日見る風景の向こうに、どれほどの恐怖と悲しみがあつたのかを、意識していただろうかと考える。思いは寄せていても、具体的に知る術はなかった。本書を読んで衝撃を受けた。本当に被災された方に、これを見せて大丈夫だろうかと思う程、写真はリアルに伝えてくれている。震災後の物資不足による栄養失調で立ち上がることにできない家畜の牛、津波に飲み込まれ遺体となつて発見された妻を目前に泣き

崩れる夫の姿。気軽に読み進めることができるものではないし、心が痛む写真の方が多い。しかし、過去のある一瞬を半永久的な映像として記録する写真は「過去のこと」を「現在のこと」として捉えるように思える。「過去のこと」を自分事として実態を知ることができるのだ。そして、本書を読み進めるうちに、写真に共通して浮き上がることに気付いた。それは写真に写る人も動物も街並みも「心のケア」を必要としているということだ。もちろん、街に建物が再建し、人が増え、物が溢れることは復興であり意義もある。

が、自分の一部として受け止めるという、心理的な復興支援の方が必要とされているのではないかと。そして震災を体験していない者にとっては、その実態を知ることこそが、一番の復興支援であり、体験の異なる者同士「心のケア」であり、「過去のこと」を「現在のこと」として捉える術なのではないか。

本書に登場する写真を一枚一枚見る度に、自分事として私にはそう思えた。大切なのは、忘れないこと。そして、心のケア。

公益財団法人 友愛
会員登録受付中

公益財団法人友愛は、皆さまのご支援・ご理解のもとで活動を続けております。会員登録（個人・法人）をしていただき、これからの友愛の発展にご協力ください。

*申込みはHPからも *お問合せは事務局まで 電話03-5684-3188

今月号に同封のご案内をご参照ください!!

友愛ほんだな

写真が切りとる目の前の災害

東京大学三年 浦 彩人

その写真は、風化しつつある災害の記憶を蘇らせた。この度紹介する『災害列島・日本』は、写真を通して東日本大震災などの災害を伝えるものである。

我が国で起こる災害は、全て我々が生きる「今」「ここで」発生している。その事を忘れてはならない。東日本大震災が世界に与えた衝撃として「原発事故」が起きたことも忘れてはならない。

それは長い月日に渡って土壌を汚染し続け、一度原発事故が起これば元の生活に戻るのには難しい。夢のエネルギー源と謳われた原子力だが、写真のような嘆きを繰り返さぬためにも、我々はそのエネルギーの危険性を認知すべきであろう。

本書のタイトルは『災害列島・日本』である。その名の通り、我が国における災害は東北大震災のみではない。

震災後の一〇年を描いた後、本書は日本における様々な災害の様を映し出す。噴火、地震、台風、豪雨：中には米軍基地移設に伴うサンゴ礁の埋め立てと

まず目を引いたのが、地震と津波によって人の生活の営みが想像できないほどに破壊された東北の町並みである。中には遺体と対面し嘆く姿もあり、天災に居

日本における災害のニュースを見る時、我々は時として映画やドラマを見る感覚に陥らないだろうか。あくまで画面越しの出来事とみなしていないだろうか。

放射線物質は目に見えず、計測器などを用いなければその脅威を回避することは不可能である。加えて



編集後記

◆事務局のある文京区小石川の近くに、東京ドームがあり、文京区役所もある。二年前から、この地域の再開発が大規模に実施され、小さなビル、町屋の類は一扫され、塀に囲まれた工事が続いていたが、最近巨大なビル数棟が顔を見せ始めた。様変わり著しいが、これもご時世かと眺めている。ご時世といえば、そのビル群を貫いて「遊歩道」が造られていて、最近一般解放された。これはナカナカと、早速毎日の通勤に利用しているが、植えられている樹木が、どうも今までの無気味な雑木を醸し出している。いわゆる雑木、最近の流行らしい。ともあれ緑があることは嬉しい。(も)